

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ギターリストセオリー		授業形態/必・選	講義	必修
		ギターリストセオリー		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位	
科目設置学科コース	ギターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験14年 自身の活動として楽曲配信やソロアルバムを発売、Youtubeにおいてはレッスン動画や業界の知識を配信等、積極的に活動。またエンジニアとしても活動しておりミックスやマスタリング、そして作曲等も全て自主でこなし、楽曲提供や数々の著名なヴォーカリストと共演。					
授業概要						
一社会人として、ギターリストとしての音楽業界知識を身に付ける講座。音楽家としての楽譜の大切さ、プロフェッショナルが揃える機材の解説や意識している事などを学ぶ。また、純粋に音楽を楽しむ為の方法論やメンタリティの改善の為のカウンセリング等も含む。						
到達目標						
音楽を仕事にしていく為の方法を個々に考え、将来的な自分の「理想の仕事」の為に音楽業界の仕組みや知識を身に付け、自分がプロギタリスト、ミュージシャン、アーティストとして生計を立てていく為の方法を考える。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	プロギタリストやプロミュージシャンが揃っている現代の機材の解説 ・音楽を作る側のプロ用ヘッドフォンやイヤホンの知識 ・DTM、DAWにて音楽を作る為に必要なパソコンの知識 ・音楽のフロアが意識しているインターフェイスの知識と選び方					
【前期】 5～7回目	ギターの楽しみの醍醐味である「アンプ」や「エフェクター」の知識 ・アンサンブルやスタジオで使う機材の解説 ・エフェクターの種類や実践的な使い方(イクイップメント論) ・エフェクターのセッティングやアンプのセッティングの実例等(サウンドメイキング法)					
【前期】 8～10回目	「音楽と仕事」「夢と現実」好きな事で生計を立てる事の考察 ・精神論や卒業後の進路等の相談(面談やカウンセリング)					
【前期】 11～14回目	音楽家が大事にすべき「譜面」の読み方、「コード」「楽典」「リズム記号」「調号」の理解 ・譜面とは何か？読むのに必要な知識 ・リズム、単旋律の聴音の反復練習 ・専門的に学ぶことと音楽を楽しむ事の両立の理解					
【前期】 15～16回目	プライベートスタジオの構築について ・モニタースピーカー(ニアフィールドモニター)の解説 ・防音やレコーディングスタジオの設計、UPC、安定化電源等、必要機材の使用例 ・日々進化する音楽制作用機材で知っておくべき知識、将来性等					
【前期】 17～18回目	エレキギターケーブルのシールドケーブル、電源ケーブル等のケーブル基礎知識 ・シールドケーブル、パワーケーブル、スピーカーケーブルの違い ・S/N比、シールドのハーやヴォリュームポットとの関連性(静電容量について) ・エレキギターのパーツ「ピックアップ」との関連性について(インピーダンス、交流抵抗値について)					
【前期】 19～20回目 (前期試験)	イベントライブ「ギターパフォーマンスクリニック」の必要書類の知識 ・歌詞カードや必要譜面の作成、セッティング図とは？(音響オペレーターや照明への要望) ・仕事上でのメール(SNS)の作法 ・音源の提出(納品仕事としてのシミュレーション)					
【後期】 21～26回目	ミュージシャン、アーティストが意識するブラックフライデーへ向けての音源の知識 ・プラグインソフトであるドラム、ベース、キーボード、シンセサイザーの知識 ・DAW用エフェクターの知識、使い方の解説(ミックス、マスタリング)					
【後期】 27～28回目	ギターの楽しみの醍醐味である「真空管」の知識(アンプ・エフェクター応用) ・プリ管やパワー管、整流管の知識 ・真空管の違いによるアンプの特性や音色の傾向の理解					
【後期】 29～30回目	ギタリストの個性を活かす「ピック」についての考察 ・使用されるピックの形や材質の理解 ・日々進化する材料や人間工学への理解と将来性					
【後期】 31～34回目	音楽業界知識講座 ・業界用語集 ・メジャーデビューとインディーズデビューの違い ・レコード会社やレーベル、音楽出版社や事務所等の解説 ・著作権や原盤権、演奏権等、一般的な音楽の観点からみる法律について					
【後期】 35～40回目 (後期試験)	自分の音楽を世界に配信し生計を立てるシミュレーション講座 ・現代のSNSにおける収入(動画配信、音楽配信) ・スタジオミュージシャンやサポートミュージシャンとしての収入 ・アーティストとしての活動の収入(ライブや物販、音源販売) ・レッスンプロとしての活動収入、請求書の書き方 ・年末調整、確定申告等、一社会人としてミュージシャン、アーティストの税金について					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	アーティストであったりサポートギタリスト、弾く以外の仕事としても作曲家や編曲者等ギターを通じてできる仕事は意外と沢山あります。やりたい事とやれる事等自分を客観視し、自分にあった職種を選ぶ為にも、音楽業界の知識は必要ですので積極的に学びましょう。					
使用教科書	担当講師によるオリジナル教材					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	メカニカルトレーニング		授業形態/必・選	実習	必修
	ギターフィジカル			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	ギターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験3年 同校主催ギターリストコンテスト入賞、音楽TV番組放送出演経験他、現在はバンド活動や生バンドカラオケでのギター演奏、楽曲提供やバンドサポートなどで活動中。					
授業概要						
楽曲を演奏する際に必要な基礎ギター能力を磨く、ギターを弾く際の運指やピッキングフォームにスポットをあて、ギターに必要な毎日使えるトレーニング集をクリック(メトロノーム)を使用しながら幅広いトレーニングを行う。						
到達目標						
プロフェッショナルが意識している正しい運指、アマチュアにありがちな適当なフレージングやフォーム等の矯正、またピッキングトレーニングができるようになった上で音感、リズム感、表現力(アーティキュレーション等)の向上と求めた演奏の実現						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	「フィジカルトレーニング&オルタネイトピッキング&ピッキングフォーム」 ・クロマチックスケール(半音進行スケール)とオルタネイトの基礎力向上 ・正しいピッキングフォームの矯正 ・クリック(メトロノーム)の正しい使い方/裏クリック体感法 ・チューニングの重要性、正しいチューニング法 ・8ビート、3連符(シャッフルリズム)、16ビートそれぞれの体感トレーニング					
【前期】 6～10回目	「フィジカルトレーニング&チョーキング(ベンディング)」 ・ペンタトニックスケール各種(メジャー、マイナー)を使い、1スケールに7つのダイアトニックとは違う指運のトレーニング ・チョーキングの概念や左手のネックの握り方講座⇒半音/全音/1音半/2音それぞれの左手の耐久力アップ向上					
【前期】 11～15回目	「フィジカルトレーニング&アーティキュレーションⅠ」 ・メジャースケール(イオニアンモード)を使った明るいスケールの音感を養う ・ギターリストの苦手克服(小指の使い方、体を使ったりリズムトレーニング等) ・アーティキュレーション(ハンマリングやスライド、グリッサンド)を学び、左手の表現力向上を図る					
【前期】 16～20回目 (前期試験)	「フィジカルトレーニング&アーティキュレーションⅡ」 ・ナチュラルマイナースケール(エオリアンモード)を使いメジャースケールとの違いや転調を行い、メジャースケール(イオニアンモード)と並行してメカニカルなトレーニングを行う ・アーティキュレーション(ハンマリングやスライド、グリッサンド)を学び、左手の表現力向上を図る ・上記1回～15回目の応用&復習					
【後期】 21～24回目	「クロマチックスケールの応用&ミュート奏法&BPM(テンポ)」 ・キーの変更やリズムを変えて更に難解なフレージングの練習 ・BPM(テンポ)の重要性、自分に合ったテンポ感や苦手なテンポなどの考察含む ・ミュートやアクセント等を考え、より音楽的なフレージングを学ぶ					
【後期】 25～29回目	「メジャースケールの応用&ミュート奏法&BPM(テンポ)」 ・キーの変更やリズムを変えて更に難解なフレージングの練習 ・BPM(テンポ)の重要性、自分に合ったテンポ感や苦手なテンポなどの考察含む ・ミュートやアクセント等を考え、より音楽的なフレージングを学ぶ					
【後期】 30～34回目	「マイナースケールの応用&ミュート奏法&BPM(テンポ)」 ・キーの変更やリズムを変えて更に難解なフレージングの練習 ・BPM(テンポ)の重要性、自分に合ったテンポ感や苦手なテンポなどの考察含む ・ミュートやアクセント等を考え、より音楽的なフレージングを学ぶ					
【後期】 35～40回目 (後期試験)	各スケール(ペンタトニック/イオニアン/エオリアン/クロマチック)の総復習 ・アーティキュレーションやピッキングフォーム、チューニングやテンポの重要性の再認識 ・上記1回～34回で学んだすべての総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	チューニングやアーティキュレーション等の基礎的な事やギターを弾く以上欠かせないリズム感と音感、それに伴う技量をこの授業を通して知っていき、正しいトレーニングの仕方、その際に気をつけるポイントを身につけて効率的な練習法を学びましょう。					
使用教科書	学内オリジナル教材「Guitar course Basic」PDFを使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	音楽理論		授業形態/必・選	講義	必修
	理論			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギター/ベース/ドラム/ギターヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験33年 ギター演奏を中心に多数のレコーディングやアーティストサポート、アーティストへの楽曲提供、劇伴、作編曲、楽曲プログラミング、教則本の執筆やトレーナーなど活動は、多岐に渡る。					
授業概要						
音楽に関する基礎的な音楽理論(ペンソックセオリー)を学び音楽に対する基礎的な知識を身に付け、楽曲制作や演奏する楽曲の理解や実演奏へのフィードバックさせる為の授業内容になっています。						
到達目標						
アーティスト、演奏家にとって大事な共通言語とされる基礎的な音楽理論の理解を深め自己の演奏に反映させ修得出来る事を目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	基礎知識(1) ・音楽記号、・拍子記号、・音名、・音符、休符・音の高さ ・調号、Keyに付いて、#系とb系(1)、・Tone Interval(1)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減)					
【前期】 6～10回目	基礎知識(2) ・調号、Keyに付いて、#系とb系(2)、・Tone Interval(2)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(1) I - II - III - IV - V - VI - VII・サークルオブフィフス(五度圏)・コードネームの表記方法(1)					
【前期】 11～15回目	基礎知識(3) ・調号、Keyに付いて、#系 b系(3)・Tone Interval(3)1度、2度、3度、4度、5度、6度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(2)、I - II - III - IV - V - VI - VII、・Major Scale上出来る三声、四声和音・コードネームの表記方法(2)					
【前期】 16～22回目 (前期試験)	Diminished(減5、減7)音程、Augment(増5)音程から出来る和声とは、 / Chord FunctionからDominant Motion / Secondary Dominant ・Diminished Chord、Augment Triad Chord・ダブルフラット、ダブルシャープ ・Chord Function(1)・Dominant Motion(1)・導音、トライトーンとは、何か、・Secondary Dominant(1)二次的なDominantとは？					
【後期】 23～25回目	ケーデンスについて ・ケーデンスのパターン Tonic Sub Dominat Dominantの進行パターン ・Dominant Motion (2)・Secondary Dominant(2)Secondary Dominantを使ってみる					
【後期】 26～30回目	転調のパターン / コードプログレッション ・平行調、同主調、近親調、遠隔調・各調へのコードプログレッションなど ・Dominant Motion(3)・Secondary Dominant(3)					
【後期】 31～35回目	Tonic minor Scaleとは(1) ・Tonic minor3種(Natural, Harmonic, Melodic) ・Natural, Harmonic minor Scale上に構築されるダイアトニックコードとDegree(度数)					
【後期】 36～39回目 (後期試験)	Tonic minor Scaleとは(2) ・Natural minor, Harmonic minor, Melodic minor Scale上に構築されるダイアトニックコードとDegree(度数) ・Natural, Harmonic, Melodic上に構築されるダイアトニックコードダイアトニックコードとDegree(度数) / コードプログレッション					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	不変的な基礎音楽理論を理解する事で、楽曲に対しての構造や造詣を深める事が出来ますので、是非、修得して自己の音楽活動、楽曲構築、アレンジへのフィードバックが出来る嬉しく思います。					
使用教科書	必要に応じ適宜PDFにて配布、タブレット端末、五線紙(五線紙ノート)、筆記用具を持参する事。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ギターベーシック1		授業形態/必・選	実習	必修
	ギターベーシック1			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ギターコース・サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験14年 サポート・ギタリストとして活動。 その他、ギタートレーナー、レコーディング、楽曲制作、編曲、音楽専門学校講師など、活動は多岐に渡る。					
授業概要						
ギターを弾く上で基礎的な部分の学習、「ギターリストに必要な理論」をメインに「指板上の音の覚え方」や「音感やリズム感の向上」、「チューニングの重要性」や「譜面の読み方や学習方法」音楽、ギター未経験者からのスタートでも段階を踏んで上達していけるプログラム。						
到達目標						
ギターの基礎的な演奏技術や練習方法の習得、プロの現場で使える音楽業界の知識、譜面の読み方や音楽理論の重要性、音楽専門学校ギター専攻として必要な音楽知識の学習						
授業計画・内容						
【前期】 1～3回目	「指板上の音」の学習、コードの概念、チューニングや譜面の重要性 ・6弦/5弦/4弦の指板上の音を覚える方法 ・オープンコードの成り立ちやセーハコードへの移行方法 ・3和音(トライアド)の学習 ・チューニングの重要性、アーティスト・ミュージシャンから見た譜面の重要性					
【前期】 4～11回目	4和音(オープンコード&セーハコード)の学習&各スケール練習方法 ・3和音(トライアド)からの応用、4和音の理解と学習 ・メジャースケール key=C(5position)の習得 ・ナチュラルマイナースケール key=Am(5position)の習得					
【前期】 12～22回目 (前期試験)	楽譜から読み取るリズム譜(スラッシュ記号)の演奏法 ・3和音を用いてリズム譜を演奏する技術 ・4和音を用いてリズム譜を演奏する技術(3和音含む) ・コード進行表&リズム譜を同時に理解し演奏する方法					
【後期】 23～25回目	調号(key)を理解した演奏の習得 ・前期で習得したメジャースケール、マイナースケールを用いて、色々なkeyでスケールを演奏 ・ダイアトニックコードの理解 ・メジャースケール Anykey=C(5position)の習得 ・ナチュラルマイナースケール Anykey=Am(5position)の習得					
【後期】 26～32回目	業界標準のスコアの読み方を習得 ・マスター譜面から、必要な情報を読み取り演奏できるようにする。(調号、楽典含む) ・現場に必要な音符読みトレーニング					
【後期】 33～38回目	マイナーのダイアトニック・コードにおけるファンクションの理解と習得 ・ナチュラルマイナー(エオリアンモード)の理解と習得 ・ハーモニックマイナーの理解と習得 ・メロディックマイナーの理解と習得 ※各スケールの代表的な使い方のレクチャー					
【後期】 39～40回目 (後期試験)	指板上の音、コード(3和音&4和音)、スケールの全把握と進級時に今後必要な知識の整理 ・ヴォイシングに活用できる指板上の音の把握 ・コードの概念、応用法 ・2年次のダイアトニックコードの活用について、音楽業界へのアプローチアドバイス					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	自分はどんなギターリストになりたいのかの前に、音楽をまず理解する事。そしてギターリストにとって必要な、大事な基礎知識をしっかり習得する事により、アーティスト、ミュージシャン、作曲家等多数あるうちの将来になりたいギタリスト像に少しでも近づきましょう。					
使用教科書	学内オリジナル教材「Guitar course Basic1」PDFを使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブル I (前期/後期)	授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンブル I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	80回(160単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験14年 自身の活動として楽曲配信やソロアルバムを発売、Youtubeにおいてはレッスン動画や業界の知識を配信等、積極的に活動。またエンジニアとしても活動しておりミックスやマスタリング、そして作曲等も全て自主でこなし、楽曲提供や数々の著名なヴォーカリストと共演。				
授業概要					
<p>コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル=ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～④課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。</p>					
到達目標					
<p>合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。</p>					
授業計画・内容					
【前期】 1～32回目	<p>アンサンブルとは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。 <p>課題曲①～④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)を4週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカバーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータルのプロデュース。 <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりリハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。 				
【前期】 33～38回目	<p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。 				
【前期】 39～40回目 (前期試験)	<p>半期のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。 				

<p>【後期】 41～74回目</p>	<p>アンサンブルとは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。 <p>課題曲①～④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカバーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータルプロデュース。 <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりリハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。
<p>【後期】 75～76回目</p>	<p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。
<p>【後期】 77～80回目 (後期試験)</p>	<p>半期のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。
<p>評価方法</p>	<p>学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>楽器やシールド・チューナー・エフェクターは自身の物を持ち込みましょう！※外部では持ち込みが常識です。1クール間(課題曲が切り替わるまで)はレンタル可。</p> <p>コミュニケーションが音楽業界では第一、その大事さと、現代における人との関わり方や他人への興味を養う。</p> <p>講師に頼るばかりではなく、学生間で情報を伝達するなどアンサンブルメンバーの一人としての自覚と責任を持ちましょう。</p> <p>今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。</p> <p>生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう！</p>
<p>使用教科書</p>	<p>学校内作成のマスター譜や譜面</p>

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ステージングフォロー	授業形態/必・選	実習	必修
	ギターリストパフォーマンスⅠ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ギターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験18年 自己のバンドでメジャーデビュー解散後はゲームコンテンツなどに楽曲提供、レコーディングに参加、現在は様々なアーティストにライブサポート、ギターレコーディングなどで活躍				
授業概要					
ギターパフォーマンスクリニック(ステージイベント)に向けてライブパフォーマンスに特化した実技を行います。リズム、ソロ、サウンドメイキング、ステージでの立ち振る舞い、衣装や自己プロデュースにおける楽曲決めや集中力の使い方をブラッシュアップ。					
到達目標					
校内のみならず、ライブハウスやイベントにて高い水準のパフォーマンスが可能な実力の習得。 自己プロデュースによる「得意・不得意」の理解、苦手を得意に変え、精神と技量共にギターリストとしてのポテンシャルの向上を図る。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	個人の前期での目標設定 ・演奏楽曲決めやパフォーマンスに必要な要素の学習 ・客観視されたチューニングの重要性、クリックに合わせた練習の必要性 ・過去に行われたギターパフォーマンス(ステージイベント)にて注意、学習すべきポイントの整理。(服装、音色、音質、セッティングの速さ等、動画視聴)				
【前期】 6～10回目	楽曲に必要な各種スケールの練習 ・ギターパフォーマンス(ステージイベント)で使う楽曲のメジャースケール、マイナースケール全ポジションの理解、各ブロック毎に弾く練習。リズム、コードストローク練習 ・楽曲にでる特殊なコードへの対策(ダイアトニック外のコード等)				
【前期】 11～16回目	イベントライブ(ギターパフォーマンスクリニック)の演奏楽曲決め ・自己分析から曲決め、ジャンル、テンポ、演奏スタイル、使用アンプを含むを決定する。 ・自分で購入したエフェクター使い方や種類を理解して、自身の楽曲を更に彩らせる為の研究。 ・購入したエフェクターが無い場合の対処法 ・ライブハウスやスタジオでよく目にするアンプとの使い方、サウンドメイキング法の伝授				
【前期】 17～22回目 (前期試験)	楽曲に必要な主要スケールと実際のイベントを想定した緊張感の中で演奏する。 ・実際に動画を録り、「自分を客観視する力」を養う ・ギターパフォーマンス(ステージイベント)に向けての自身の楽曲のポイント部分、コード進行とソロ、衣装やステージパフォーマンスの確認、ブラッシュアップ ・演奏楽曲に使われるメジャー&マイナーペンタトニックスケール全ポジションの理解(反復) ・自身のギターパフォーマンスにて演奏する曲の披露、講師から学生へのアドバイス等				
【後期】 23～25回目	自身で選んだ楽曲の分析、そこから見える自己プロデュース ・ギターパフォーマンス(ステージイベント)に向けての自身の楽曲のポイント部分、コード進行とソロ、衣装やステージパフォーマンスの確認、ブラッシュアップ。 ・講師から学生へのイベント前最後アドバイス等				
【後期】 26～35回目	イベントの反省/過去のヒットソングを分析 ・イベントライブ(ギターパフォーマンスクリニック)の反省会や今後への課題、見直し ・ステージパフォーマンスにおいての見せ方以外に、曲での見せ方聞かせ方の理解(曲の際立つ部分等、理由や理論を混ぜて解析) ・音源に合わせてコードの習得、インプロヴァイズ(アドリブ)の練習。				
【後期】 36～39回目 (後期試験)	授業内にて実践発表と2年生のライブイベント、ギターパフォーマンスクリニックへの対策の開始 ・実際に自身の楽曲に合わせて授業で演奏し、それを動画に撮影して全員で改善点や良い点をそれぞれ探しライブに向けてのクオリティアップ。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	どの様なギタリストになりたいですか? 弾ける、魅せれる等、沢山の要望がありますが「答え」はステージにあります。しかし自分の得意、不得意をきちんと理解し学ばなければ、実力やスキルも何を勉強したら良いかわからず…「答え」は見つけれない。自身を見極められる力をつけ、多くの「答え」を見つけ高みを目指しましょう。				
使用教科書	ギターコースベーシック1 適宜PDF資料を配布、授業時ホワイトボードに記載、要筆記用具、五線紙ノート、タブレット端末				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	講義:選択DAW I (前期/後期)	授業形態/必・選	講義	必修
	DAW I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース・ギターヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また、アイドルや声優の楽曲や CMのサウンドロゴの作編曲。MIX MASTERINGまで自身で行い、ライブではマネージャーとしての活動も行っている。				
授業概要					
DAW(mac&Logic)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。					
到達目標					
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるようになる)知識、実践方法を学ぶ。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、Logic Pro Xの操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ				
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解				
【前期】 11～20回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成				
【前期】 21回目～22回目 (前期試験)	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習				
【後期】 23回目～36回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ				
【後期】 37回目～38回目	ツーマックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)				
【後期】 39回目～40回目 (後期試験)	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	今や楽器を持つ人(ヴォーカル含む)に必要な現代音楽の作成ツールであるDAWを知ること、使うことはとても重要です。バンドだけ…演奏だけ…ではなく、「創る楽しみ」も同時に学び、今後の時代の発展に合わせた作曲やサウンドデザインを心がけ、オリジナリティあふれる作品を創ってください。				
使用教科書	各講師オリジナルの教材の使用。 必要に応じ適宜PDFにて配布、タブレット端末、五線紙(五線紙ノート)、筆記用具を持参する事。				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	イクイップメント講座		授業形態/必・選	講義	必修
	リズムトレーニング			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位	
科目設置学科コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験38年 単身ヨーロッパ各地でのギグに参加し、ジャンルに拘らず、ジャズはもちろんのことフュージョン、ロック、ラテンと幅広いリズムに精通するオールマイティ。自身のバンドのリーダーとして都内を中心にライブ活動を展開中。					
授業概要						
音楽の三大要素「リズム」にまつわる感覚と知識を、担当楽器によるリズムレ・アセスメントとアカデミー講義から学ぶ。						
到達目標						
専科の楽器演奏の際にBeatをコントロールする感覚とtempoのキープ、そしてFeelのマニピレイトを実現する。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	「4分音符アセスメントとリズムの概要」 ・4分音符のテンポキープのアセスメント(J=60～120)・リズムとは何か ・Beatとは何か ・Beatリズムの世界分布と価値 ・リズム哲学 ・メトロノームの使い方					
【前期】 6～10回目	8分音符アセスメントとBeatとFeelの分類 ・8分音符のキープアセスメント(J=60～120)・8分音符の裏キープアセスメント ・BeatとFeelとは何か ・Feelの種類 ・ノリの構造分解(縦・横)					
【前期】 11～15回目	16分音符アセスメントとスピード感 ・16分音符のキープアセスメント(J=60～120) ・フロント・ジャスト・ビハインド ・16分の裏キープアセスメント ・テンポとスピード感の違い ・Feelとスピードのリレイション ・ダブルタイム ・2Beat ・4Bbeat					
【前期】 16～20回目 (前期試験)	3連と6連のアセスメントとFeelとBeatのキャッチボール ・3連符のキープアセスメント(J60～120) ・3連の裏キープアセスメント ・音源によるFeelとBeatの聴覚レッスン ・FeelとFILL INのリレイション					
【後期】 21～25回目	トランスフォーメーション、Beatリズムの歴史 ・各種音符のチェンジアップとアセスメント。・Beatリズムの起源と因果 ・黒人音楽 ・ジャンルとFeelのリレイション ・スピリチュアル ・ダンス ・タメとモタリ、ツッコミと走り。					
【後期】 26～30回目	シンコペーションのアセスメント、プログレス・リズム講① ・シンコペーションキープのアセスメント。 ・Jazz・Classic Blues・Country Blues・Gospel・City Blues・Chicago Blues・Jump Blues・R&B					
【後期】 31～34回目	アドバンス・リズムのアセスメント、プログレス・リズム講② ・シャッフル・リズムの実践とアセスメント。 ・doo-wop ・Modern Jazz ・Modern Blues ・R&R ・Soul ・Norther Soul ・Southern Soul ・Motown ・Stax ・Atlantic					
【後期】 35～39回目 (後期試験)	アーティキュレーション、プログレス・リズム講③ ・包括的総合実習とアセスメント。 ・Funk・Modern Soul・70年代MOTOWN・Sweet Soul・Modern Gospel・Fusion・Disco・Garage ・Black Contemporary・Rap(Hip・Hop)・Contemporary R&B					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	Beatリズムのノリの仕組みを、構造化しリズムトレーニング。 またリズムの起源と進化の過程からジャンルとリズムの関係性を明らかにする。自分のBeatを出せる様に。					
使用教科書	必要に応じ資料・プリントを配布					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	サウンド・デザイナーⅠ		授業形態/必・選	実習		必修
	ギターアナライズ			年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	ギターコース						
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>						
担当講師 実務経歴	実務経験33年 ギター演奏を中心に多数のレコーディングやアーティストサポート、アーティストへの楽曲提供、劇伴、作編曲、楽曲プログラミング、教則本の執筆やトレーナーなど活動は、多岐に渡る。						
授業概要							
実際に演奏をする際にスコアを見て何をどのように解釈して演奏する方が良いのか、楽曲構造(Keyやコード)がどうなっているのか、適合するスケールは、何が弾けるのかを考察解析しながら授業を進めます							
到達目標							
実際にスコアを見てその楽曲のテンポやFeel、Key、スケール、コード等は何か、転調はしているのか？楽曲構成は、どうなっているのかを把握出来て弾ける事を目指します							
授業計画・内容							
【前期】 1～5回目	楽曲テンポや構造を知る ・拍子記号、音楽記号・音符、休符・楽曲構成について、 ・Keyとは、何か・サークルオブフィフス、・Scaleに付いて、・コードとは、その表記されている意味とは						
【前期】 6～10回目	Degree(度数)表記への理解 ・Degree表記の理解・Scale上に出来る和音(コード) ・コードネーム表記でのプログレッション、・Degree表記でのコードプログレッション						
【前期】 11～15回目	Tone Intervalがdiminishedとaugmentを含むコード(Harmonic minorとWhaletone Scaleについて) ・diminished、augmentのIntervalを含むコードとそのコードを使用したコードプログレッション ・アナライズ、・コードアルペジオ・アドリブ(1) Major、minorのPentatonic Scale						
【前期】 16～21回目 (前期試験)	コード進行における機能 ・Chord Function(1)Tonic Sub Dominant Dominant ケーデンスとは何か ・Dominant Motion、・Secondary Dominant・コードプログレッション・アドリブ(2) Major Scale、minor Scale、Pentatonic						
【後期】 22～25回目	クリシジェやベダルと呼ばれる進行、同じ楽曲での転調パターンについて・Chord Functionの復習 ・クリシジェとベダルの理解と進行パターン、 ・転調のパターン、平行調、同主調、近親調、遠隔調・コードプログレッション・アドリブ(3) Major Scale、minor Scale、Pentatonic						
【後期】 26～30回目	Tonic minor Scale上に構成されるコード(1)Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor ・Tonic minorのDegree、Function(2)・プログレッションアナライズ、・アドリブ(4) Major、minor、Pentatonic、Harmonic minor含む						
【後期】 31～35回目	Tonic minor Scale上に構成されるコード(2)、Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor ・Degree、Function(3)・プログレッションアナライズ・アドリブ(5) Major、minor、Pentatonic、Harmonic minor、Melodic minorを含む						
【後期】 36～40回目 (前期試験)	Tonic minor Scale上に構成されるコード(3)、Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor ・Degree、Function(4)・プログレッションアナライズ・アドリブ(6)Major、minor、Pentatonic、Harmonic minor、Melodic minorを含む						
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)						
学生へのメッセージ	楽曲を演奏する際にテンポやKeyなど勿論の事、実際に自分の弾いているコードやノートは、何の音なのか、構成音や機能、スケールの分析出来れば楽曲へのアプローチが早くなると思いますのでアレンジや作編曲にも役立つと思います。						
使用教科書	ギターコースベーシック1 適宜PDF資料を配布、授業時ホワイトボードに記載するので、要筆記用具、五線紙ノート、タブレット端末						

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	分野別講座	授業形態 / 必・選	講義	必修
	分野別講座		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科、芸能タレント科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経歴25年 高校時代よりバンド活動を行う。専門学校にて学んだ後、1998年レコーディングスタジオに就職し、数々のアーティストの音楽制作業務に携わる。				
授業概要					
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。					
到達目標					
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	・発声の基礎知識 歌唱、台詞(滑舌)
【前期】 3～8回目	・楽器の基礎知識 ギター、ベース、ドラム、キーボード、管楽器、ピアノ
【前期】 9～15回目	・音楽活動における基礎知識 譜面の読み方・書き方、リハーサルスタジオの使い方、楽器メンテナンスの方法
【前期】 16～19回目	・イベントの基礎知識① PA、照明、レコーディングの基礎知識。 イベント資料の作成方法。
【後期】 20～23回目	・イベントの基礎知識② ライブ、レコーディングの進行方法
【後期】 24～28回目	・音の基礎知識 電源、マイクの原理、音の仕組み、デジタル変換
【後期】 29～32回目	・パソコンの基礎知識 スペック、オーディオ、ピクチャ、ムービーについて
【後期】 33～38回目	・卒業後の進路に向けて デビュー、就職
評価方法	レポート提出状況・内容によって評価
学生へのメッセージ	今の時代、ある程度の事は自分一人で出来るスキルが求められます。「興味がない、関係ない」で終わらせず、自分自身の為に学ぶという意識を持って取り組んでください。
使用教科書	習得する内容に合わせて、随時テキストデータをPDF形式で配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アーティスト実地演習 I		授業形態 / 必・選	演習	必修
	アーティスト実地演習 I			年次	1年次	
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	7回(28単位時間)	年間単位数	1単位	
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。					
授業概要						
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。						

授業計画・内容	
1回目～5回目	ESP学園主催イベント①～⑤
6回目	コースイベント
7回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボード I (前期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボード I (前期)		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。					
到達目標					
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。					

授業計画・内容	
1～2回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
3～4回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
5～8回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
9～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～20回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボード I (後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボード I (後期)		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。					
到達目標					
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。					

授業計画・内容	
1～2回目	キーボードの機能について学ぶ。スケール練習を中心に練習。 ダイアトニックコードについて知り、それを課題曲演奏に活かす。
3～4回目	スケール練習の継続、リズムやテンポを変えた練習。 コードの転回形を学ぶ。
5～8回目	リズムパターンのはっきりしたベースラインを演奏する。 あわせて右手でコード演奏を行い、形にする。
9～12回目	課題曲をもとに反復練習、必要に応じて講師による講評
13～16回目	ピアノの特性を活かしたイントロ演奏。コードをアルペジオに変えた演奏。
17～20回目	アルペジオ演奏を通じて、運指のトレーニング。 一人で左右とも異なった動きができるよう反復練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。